

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 企業就労を通じて自立と社会参加を促進し、社会に貢献できる人材を育成する学校
- 1 生徒の人権を尊重し、個々のニーズをふまえた教育実践を進め、企業就労と社会貢献を実現させる。
- 2 地域、大学、企業、福祉・労働等の関係機関と幅広い連携や交流を充実させ、生徒が主体的に社会に参加できる力を育てる。
- 3 教員の専門性を高め、社会の変化や多様性を踏まえた組織を構築することで、職業教育の充実を図り、生徒の「働き続ける力」を伸ばす。

2 中期的目標

- 1 社会的自立に必要な力を養うための特色ある**教育活動の充実**
- (1) 学習指導要領をふまえた教育課程により、確かな学力をはぐくむための「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業改善に努める。
*学校教育自己診断の「授業中に発言や発表することがある」の項目では生徒の肯定率を 85%以上を維持する。(R3:75.6%、R4:79.1%、R5:85.2%) →評価結果 82.7% (○) (目標値を下回っているが○とした。理由については後述。※1・2を参照。)
- (2) キャリア教育の観点からの自立活動を充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じ、自主性・自立性を育成するための適切な指導、支援を行う。
*高等支援学校ならではの適切で有効な自立活動を実施し、専門人材の活用等により効果的かつ効率的な指導、支援を行う。
- (3) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現と「働き続ける力」を育成するための「進路学習・進路指導」を推進する。
*全生徒に学校生活を大切にしたい規則正しい生活習慣を定着させ、豊富な実習体験により適切で効果的なジョブマッチングを重視した進路指導を行う。高い就労率と定着率を維持し、アフターフォローについても重視する。定着率 100%をめざす(再雇用含む)(R3:96%、R4:87%、R5:91%) →評価結果 100% (○)
- (4) 生徒 1 人 1 台端末と電子黒板等 ICT 機器を効果的に活用した授業等の一層の推進に努める。
- (5) 生徒会活動の充実、他の高等支援学校や高校、支援学校高等部とのスポーツによる交流機会の拡大と部活動の活性化を図る。
- 2 高等支援学校教員としての**資質の向上**とこれからの時代の変化に対応できる**学校組織力の向上**
- (1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の育成をめざす。
- (2) 生徒への適切な指導実践を行うため、教職員一人ひとりが人権意識をより高め、障がいの理解や支援方法などについての専門性の向上を図る。
*学校教育自己診断の「担任の先生に、困っていることや、悩みを話せる」の項目で肯定率 80%達成をめざす。(R3:77.8%、R4:65.9%、R5:77.3%) →評価結果 76.5% (○) (目標値を下回っているが○とした。理由については後述。※3・4を参照。)
- *令和6年度末には支援学校教員免許の所有率 80%以上をめざす。(本校籍教員 R3:70%、R4:63%、R5:60%) →評価結果 74% (△)
- (3) 教員間の意思疎通を図り、経験年数の少ない教員への適切な支援や健全な同僚性のもと、積極的に学校経営に参画する仕組みを整え、組織力を向上させる。
*学校教育自己診断の「学校組織」での全項目(特に「経験年数の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」項目)で肯定率を 75%とする。(上項目 R3:58.5%、R4:73.3%、R5:60%) →評価結果 58.5% (△)
- 3 地域、大学、企業、福祉・労働等関係機関との**連携や交流を充実**させるとともに、積極的に情報を発信し、本校の教育活動への**理解啓発**を推進
- (1) 地域社会の中で積極的に活動し、豊かに生きるために交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で連携を図り相互理解を深める。
*大学との共同研究を進める。
- (2) 本校の様々な教育活動を積極的に外部発信するなど広報活動の充実を図り、高等支援学校の特色を地域、企業に広める。
- (3) 危機管理体制の充実と地域との連携により防犯・防災教育を行い、「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上をめざす。
- (4) グローバル化や情報化をはじめとした社会の加速度的な変化に対応するため、国際理解教育、国際交流を推進することで、国際的な視野を育むとともに、これからの時代に生きる力を育成する。
- 4 校務の効率化による働き方改革
- (1) 校務運営の効率化を図る。
- (2) ワークライフバランスを意識した働き方改革を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
○学習指導(授業) ※1 ・生徒「5授業中に発言や発表をすることがある」では、肯定率 82.7%と高いものの、昨年度(85.2%)からは下がった。現状の授業では、グループワークなどの話し合いの場を多く設けているが、生徒はそれを「発言」とする認識が薄いのかもしれない。今後より「主体的・対話的で深い学び」となる授業をしていくためには、教員が生徒の発言や発表が学びにつながることを再認識し、意識的かつ効果的に生徒の発言や発表の場を設けたり、生徒が自分事として捉えられるような投げかけや生徒の発言を引き出すような発問をしたりしていくことが必要である。 ・教員「4自立活動の指導は、生徒の障がいや特性に合わせ、生徒が前向きに取り組めるように工夫している」では、昨年度に比べ肯定率が 20.6 ポイント上がった(R5:55.0%→R6:75.6%)。生徒の特性に応じた指導を日々行っている成果であると考えている。今後も、個々の生徒の自立活動の目標を全体の指導の中で意識するとともに、自立活動研修等を通して、生徒の実態に合った自立活動の取り組みができるよう、改善と検討を行う。 ○生徒指導・生徒理解 ※3 ・生徒「11 担任の先生に、困っていることや悩みがあれば話せる」と「12 担任の先生以外に、困っていることや悩みがあれば話せる」では、肯定率が上がった(それぞれ、R5:72.7%→R6:76.5%、R5:77.3%→R6:81.5%)。日々の生徒との対話では、楽しい会話だけではなく、生徒指導の内容の話もある。引き続き、生徒の思いも受け止めつつ、生徒が自分の課題に向き合っていけるように支援す	第1回 6/21 ○令和6年度 学校経営計画について ・教育での数値目標化は難しいが、数値化を多くの項目でされているので評価できる。アレルギー情報の発信の回数や、PTA備蓄品公開は常時実施なのかなど、まだ数値化されていない項目も数値化すると実施しやすく、年度末の評価もしやすいと思う。 ○令和5年度3年生(9期生)進路状況について ・卒業後すぐは、障がい者就業・生活支援センターの担当者と本人とのつながりがどうしてもまだ浅いので、学校から本人のことをよく聞いて、本人の支援をしていこうと思う。会社の雇用率が上がってきて、どの生徒をどの会社にマッチングさせていくか、選択肢が広がればまた視野も広がるだろう。これからも連携を密に取っていきたい。 ・法定雇用率の改正があり、民間企業では 2.3%から 2.5%に上がっているが、事業者は雇用者のキャリア形成の支援もするよう、障がい者雇用の質の向上も求められてきている。今、大阪府全体では 2.3%の達成率だが、先生方にもお願いしたいのは、1人でも多くの実習や見学の機会を設けてもらいたい。就職は追い風傾向だが、本人が何をしたいか、この会社でどうしたいかのマッチングを保護者にも学校にも協力をお願いしたい。 ○地域交流について(安満遺跡公園ハンドメイドフェス、淀川わいわいガヤガヤ祭、鳥飼なすワングランプリ) ・私も行かせてもらった。子どもも、自分が作ったものが売れて嬉しそうにしている。自分たちが作ったものを自分たちで売って、というのが良い。こういった地域のイベントに参加させていただけてありがたい。今後よろしくお願いします。 第2回 11/22 ○7月授業参観週間保護者アンケートについて ・自分の子どもも、挨拶ができるようになった。自信がついて、声が出るようになった。とりかいに来て、以前に比べて活発になった。(アンケートの記述内容を見て)他の子も同じようでうれしい。 ・とりかいの生徒は自分から挨拶してくれる。アンケートに記載があるように雰囲気がいい。生徒は楽しみながら学ぶことができていると思う。 ・時代の流れもあるし、今後もインターネットの活用を続けてほしい。先生もアンケート内容をPCに打ち込む手間も省けるし、有用だ。 ・アンケートの記述に「先生があたたかく見守っていた」、「こつこつ丁寧に作業している」、「手順の確認ができていた」など褒めていただいているが、どこを見てあたたかく見守っていたのか、どういう確認ができていたのかなど、良かったことは具体化して教員間で共有して広げていくことが大切。具体的にすると、次回

る必要がある。また、昼休みのランチタイム相談室や体育館、図書室の開放など、HR 教室以外の居場所づくりも継続していきたい。 ○進路指導 - 生徒「13 将来の進路や生き方について考える機会がある」で肯定率が下がった（R5:93.2%→R6:88.9%）が、本校では随時、職場実習に行っているの、該当する授業の出席のタイミングが合わなかったからかもしれない。引き続き、職場実習も含め、普段の授業の中で折に触れて進路や生き方について考える機会を意識して設けていく。 - 教員「11 生徒の興味・関心や適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導が行われている」で肯定率が下がった（R5:90.0%→R6:87.8%）。生徒の希望と現実のギャップや教員の生徒に対する進路指導観の違いなどが考えられるが、就職率や定着率は高く（定着率 R5 年度卒業生 100%）、「働き続ける力」の育成では一定の成果を上げていると考えている。引き続き、学校全体として「就労を通じた社会的自立」という目標を共有しながら、生徒個別に対応した進路指導を教員間で話し合い、保護者や関係機関とも連携しながらすすめていく。 ○いじめ対応 - 生徒「16 先生は、いじめなどについて困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」で否定率が下がった（R5:11.4%→R6:8.6%）。引き続き、生徒の様子に気を配り、困っていることなどがあれば親身に生徒の相談に乗る。 ○情報提供 - 保護者「13 学校以外の相談機関の情報を学校から必要に応じて入手できる」で例年、否定率と無回答率がやや高めである（R6:否定率 12.5%、無回答率 3.8%）。引き続き、保護者説明会や保護者向け講演会により多くの保護者が参加できるようにオンライン参加も実施したり、欠席者に後日資料を配付したりする。また、懇談時や連絡帳、電話で個別に相談先の問い合わせがあった際は、適切に保護者に情報提供をする必要がある。 ○学校・家庭・地域との連携 - 保護者「17 学校は、子どもが地域や社会と交流する機会を設けている」で肯定率がやや下がった（R5:90.5→R6:87.5%）。引き続き、普段の授業の中での地域交流や休日の地域の行事参加について、生徒の頑張りとともに積極的に連絡帳に書いたり、学校 HP にその様子を掲載していることを積極的に保護者に知らせたりしていく必要がある。 ○危機管理 - 教員「20 災害等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう、防災計画が整備されている」で肯定率は高いものの、一定の否定率がある（R6 肯定率:87.8%、否定率 12.2%）。避難訓練の行事の時だけでなく、日頃から防災計画を共有し、万が一の時の動きについて教員全員が把握し、意識しておく必要がある。 - 教員「21 生徒の個人情報に関する管理システムが周知されている」で、例年一定の否定率がある（R6:12.2%）。今年度、個人情報の漏洩等の事案は発生しなかったが、今後も日頃から話題に出したり、再連絡をしたりすることで個人情報の保護を徹底していく。 ○学校組織・教育活動の改善 - 教員「23 教員は、学校の運営や改善に役立つよう、積極的に意見や考えを発信している」、教員「26 初任者等、経験の少ない教員を学校全体で育成する体制が取れている」で例年否定率が高い（それぞれ R6:20.2%、39.0%）。例年、初任者、2 年め、10 年めの教員は校内で研究授業と研究協議を対象教員がいれば行っているの、引き続きより多くの教員の参加を呼びかける。また、初任者、2 年め、10 年めの教員同士での授業見学も呼びかける。また、例年否定率が低い項目について、教員全体から考えや改善案などの意見を別途アンケートを取り聞くことで、低い原因を調査し、次年度の改善につなげる。	以降、より良い評価が得られていく。 ○令和6年度3年生（10 期生）進路状況について - 就職率が高く素晴らしい。現実的なところ言えば、生徒にとって人間関係も課題なのだろう。続かずに離職してしまうこともありえるだろう。社会時に出たら困難なことなどもあるだろう。先生は生徒のメンタルをフォローし、社会に出たらいろいろあるよと教えてあげてほしい。 ○令和6年度学校経営計画の進捗状況について - 各項目の評価について、実施回数も大事であるが中身も大事というのはその通り。働き方改革を言われるが、対人関係の仕事は、何か起これば帰りが遅くなる。何でもかんでも時短ではない。生徒は日々変化する。 - 就労時間については、協力できるところはお互いに協力してほしい。 「〇〇会社の常識は社会の非常識」とはよくある話だ。ビジネスマナーについては、とりかい高等支援学校ではないが、職場実習中にアボなしで会社に巡回に来たり、実習最終日に評価表記入の依頼をしたりする学校があり、もしそれがその学校の全体的な風土となっているのであれば大変なこと。生徒にも良くない影響が出る。 - 時間外勤務については、今の世の中とはかなり乖離した水準であると認識してほしい。ニュースで教員が大変と言われると、なり手がどんどん減っていった教育界が成り立たなくなる。時間外勤務が必ずしも悪いわけではないが、今は原則ゼロがスタンダードであると毎年申しあげている。 - 教員はある意味職人なので、ここでやめようというのが難しい。それをやめるとストレスがたまる教員もいるとは思うが、できるだけ勤務時間は短くしてもらえたら。 - 評価で△のついた項目は、校長先生からの理論だった説明があり、最終評価の際も説明があれば〇としてよい。良く伸びているところは、なぜ良く伸びているのか検証もしてほしい。 第3回 1/31 ○11/16(土)学校祭来校者アンケートについて - アンケート内容を去年と比較して考える材料にしてほしい。生徒も教員も楽しめているなど感じる。 ○12 月授業参観週間保護者アンケートについて - 普段から見ている時と同じような授業の良さが伝わってくる、良い感想が多い。引き続きよろしく願いたい。 - 今年は参観者が増えていて、アンケートも良い内容だと思う。 今後も参観者が増える工夫を。 - アンケートの QR コードを掲示したり、来校した保護者に連絡帳でアンケートを配付したり、いいと思う。 - 保護者が参観で授業の様子を見てみると、家庭で話の話題になって良いだろう。 ○令和6年度3年生（10 期生）進路状況について - 障がい者の法定雇用率が上がり、企業の積極的な採用が続いている。マッチングが重要。 - 途中で仕事を辞めたいとなるなど、ストレスがすごくなる社会になってきている。そこにどう対処していくか。生徒個々のメンタル面も寄り添ってケアしてみてあげてほしい。 - 進路先が決まってきてほっとする。1 年生の時は嫌だと言っていたのに、実習に行ったら自信をつけて3 年生で決まって、嬉しい。これで卒業して、その後、進路先に定着するかが課題。将来に役立つ内容を授業で扱い、困った時には SOS を出してい、相談するんだよと言ってあげてほしい。 - 家族としては、内定取り消しがないかドキドキする。家でも、途中でやめないことを本人に言っている。何回も実習に行って、しっかり自分で判断をしていけるのが、本当にありがたい。 - 大学では、最近は大学3 回生で内定が決まったりするので、より実践的な授業内容に変えないといけなかったりする。柔軟な対応が求められる。 ○令和6年度 学校教育自己診断 結果と分析について %が低いところもあるかもしれないが、楽しく仲良く、いい意味で温かい雰囲気 학교生活を送る子どもが送られて嬉しかった。本人も「今は楽しい、とりかいい来て良かった」と言っている。以前はいつもと違うことになると嫌がったのが今は変わり、明るく、積極的になった。先生が楽しいって良いことで、「あんな風に職場の人と楽しく仕事をしたい」と本人は言っていた。 - 今は楽しいと思えない生徒もいるのが学校。じゃあなんでしんどいのかを考えていかないといけない。授業は分かりやすいのに学校に行くのは楽しくないと思っている生徒もいるのかな、保護者は本人は楽しく学校に行っていると思っているが生徒はそうでもないのかな、など自己診断の結果から読み取れる。1 年生の時は学校嫌やと言っている、3 年生になって卒業したくないと言っている生徒もいる。教員の項目で、経験の少ない教員を育成する体制について肯定率が低いのは気になる。 - 進路状況の報告を聞いて、先生方の努力の結果だと思う。 - 一番低い肯定率でも、生徒と保護者は 70%を超えているので高い%だと思う。 - 弊社でも従業員満足度アンケートがある。それ目的に頑張っているわけではないが、弊社で障がい者就労に力を入れているのと同様に、学校でも生徒の教育に頑張っておられる。数字に一喜一憂するのも変な話だが、なぜなのか結果を分析して深掘りするのも大事。 - 大学でも授業アンケートがある。分かってほしいレベルを上げると結果が低くなるもので、母数が少ないのでなかなか数字を鵜呑みにはできない。教員は、以前の勤務校での良かった体制をイメージしがち。だんだんと今の勤務校になじんでいくものとは思いますが。 ○令和6年度 学校経営計画及び学校評価について - 目標数値が上回っていても、説明できれば評価していい。1 年後の職場定着率が 100%とはすごい。全国では、2017 年で 68%の定着率だ。マッチングとアフターフォローの成果だと思う。 - クラブの加入率が高いことについてどんな工夫をされたのだろうと思う。生徒がクラブに興味を示したのでしょね。 - 結果は数値だけではない。職場定着率 100%とはすごい。努力を続けてほしい。 - 数値の件について異論はない。クラブに新しい生徒が入ると先輩の生徒の顔つきが変わる。先生の、「クラブ入ったら？」の促しが生徒に響いていると思う。 - 子どもは、クラブに行ったら、いきいきして家に帰ってくる。学生として青春やってるんだなととても嬉しい。 - 遅刻者数について、今の目標設定（遅刻ありが何割）とは反対に、遅刻なしが何割とか、肯定的な目標設定を。 ★R6 年度学校経営計画及び学校評価について、承認された。 ○令和7 年度 学校経営計画及び学校評価について - スリム化されて良い。分かりやすい。 - 学校全体でやっていこうというのは、とても良い。キャッチコピーがあるのは分かりやすい。 - 教員の思いも校長の思いも凝縮された計画だと思う。 ★R7 年度学校経営計画及び学校評価について、承認された。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目 標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5 年度値]	自己評価
1 特色ある教育活動の充実	(1) 学習指導要領を ふまえた教育課 程による「主体 的で対話的な深 い学び」を軸と した授業改善 (2) キャリア教育の 観点からの自立 活動とニーズに 応じた適切な指 導・支援	(1) ア シラバスに沿った指導の検証 (教務部)	(1) ア・毎月の教科・学科会議にてシラバ スや授業内容の確認を継続 ・学校教育自己診断 「意見を伝える、発表することが ある」肯定率 85%以上 [85.2%]	(1) ア・毎月1回、教科会と職業学科・共通会議を設定し、シラバ スや授業内容の確認をしている。＜○＞ ・学校教育自己診断「意見を伝える、発表することがある」 肯定率 82.7%＜○＞※2 (肯定率が 80%を超えていること、及び「授業はわかり やすい」の肯定率が 96.3%であることから○とした。)
		(2) ア キャリア教育に関する研修の 充実 (進路部・教務部・地域支援部) イ 専門人材の活用推進 (首席)	(2) ア・キャリア教育の観点での自立活動 に関する教員研修 2 回 / 年 [2回] イ・スクールソーシャルワーカー、ス クールカウンセラーの活用年 45 回以上 [45 回]	(2) ア・4/9 キャリアプランニングマトリックスと絡めた自立活動研修、9/30 自 立活動研修①、1/8 自立活動研修②、3/18 教育課程と 絡めた自立活動研修の計 4 回実施。＜◎＞ イ・SSWは 33 日(6H/日)来校、SC は 13 日(5H/日× 10 日+4H/日×2日+6H/日×1日) 来校で計 46 回。月 1,2 回の来校に合わせて効果的に活用し、生徒支 援につながっている。※SC2日分は学校独自予算で追加 ＜○＞
		ウ 昼休みに相談窓口を設置し、 日常的、組織的、計画的に気軽 に相談できる体制を継続す る。(首席)	ウ・学校教育自己診断 「担任の先生に悩みを相談で きる」「担任の先生以外に困って いることを話せる」肯定率 80%以 上[77.3%]	ウ・学校教育自己診断「担任の先生に悩みを相談できる」肯定 率 76.5%、「担任の先生以外に困っていることを話せる」 肯定率 81.5%＜○＞ (「担任への相談」の肯定率は未達成であるが、担任には 相談しにくい相談等をランチタイム相談室(月水木金)を 実施することでフォローできたと考えるため○とした。) ランチタイム相談室の来室者数はのべ 400 人だった。 ※4
		エ 安心・安全の保障 感染症対 応、アレルギー対応の継続と いじめの未然防止 (保健部・生徒指導部・首席)	エ・感染症予防に関する指導の徹底 ・生徒保健委員会で感染症、アレ ルギーに関する情報の発信	エ・生徒集会や保健だよりで、感染症予防について生徒に呼び かけるとともに、長期休み前に生徒 1 人 1 箱のマスクを 配付。＜○＞ ・学校祭における食品販売のアレルギー対応についてアレ ルギー対策委員会で確認。＜○＞ ・6月 12 月安安アンケート、9月いじめアンケートを実 施。「相談はない」が大半で、対応が必要な件は対応済み。 ＜○＞
	(3) 自己実現と働き 続ける力を育成 するための「進 路学習・進路指 導」を推進	オ 規則正しい生活習慣への意識 を向上させ、そのために家庭 と連携した遅刻指導の徹底 (生徒指導部)	オ・年間遅刻総数の減少 200 未満 [249] ・校門での登校指導、下校指導の徹 底	オ・年間計 383 回。＜△＞ 次年度も保護者等と連携し指導していく。 ・毎週火曜日に生徒指導部教員で登校指導を実施。 終礼後や部活動終了後に、タイムカード前での下校指導 を実施。＜○＞
		(3) ア 職場開拓 (進路部)	(3) ア・進路指導部を中心に効率 的な職場開拓を実施(長期休暇中 に全教員一人 1 回以上/年) [1、 2 年全員が開拓]	(3) ア・卒業生のアフターフォロー、実習巡回ですべての教員が職場開拓を 兼ねて企業訪問を行った。職場開拓に特化した企業訪問 も、進路指導部を中心に実施。＜○＞
		イ 企業への広報活動の充実 (進路部)	イ・企業への説明会、見学会実施 3 回 [3回] ・個別の見学会実施 40 件/年を維 持[見学 42 件/年]	イ・7/8 企業向け見学セミナーを実施。＜○＞ ・企業個別の見学は 44 件。＜○＞(うち 8 件が 2 年生で の職場実習につながったため○とした。)
		ウ 計画的なキャリア教育 新キ ャリアプランニングマトリッ クスに基づく指導の徹底 (進路部・教務部・地域支援部) エ 校内外進路学習、企業実習の 充実(進路部)	ウ・キャリアプランニングマトリッ クス研修を 2 回実施 [2 回] エ・就労や社会参加につながる企業実 習を 2 年生修了までに 4 社以上 達成者 7 割を維持[2 年生 7 割] ・教員研修 5 回[5 回]	ウ・4/9、3/18 キャリアプランニングマトリックスと絡めた自立活動研修を 2 回実施。＜○＞ エ・2 年生の企業実習回数は、5 社達成 1 割、4 社達成 5 割、 3 社達成 3 割、2 社達成 2 割。＜○＞(生徒の状況を踏ま え、1 回 1 回の内容を充実させているため○とした。) ・4/2 進路全体研修、7/22 ビジネスマナー研修、 10/4 支援機関についての研修、 3/18 ジョブマッチングと年度末総括の研修の計 5 回。＜○＞
		オ 保護者や外部への十分な進路 情報の発信 進路指導日より、PTA 研修会・ 見学会、ホームページの充実、 ハイブリッドでの研修会の実 施(進路部・首席)	オ・学校教育自己診断 「学校以外の相談機関の情報を学 校から入手できる」肯定率 85% 以上 [83.8%]	オ・学校教育自己診断「学校以外の相談機関の情報を学校から 入手できる」肯定率 83.8% 9/12 P T A 企業見学会、12/24 SNS 研修、1/15 進 路講演会・卒業生の保護者による講演会を実施(計 30 人)。 各学年の保護者説明会で進路指導部による進路説明(ワライ 出席あり)。HP の進路状況を最新に更新、保護者向けに 進路の手引きを配付。＜○＞(見学会や講演会等に参加さ れたすべての保護者から実施後「参考になった。」との感 想が寄せられたため○とした。)
		(4) ア 1 人 1 台端末と電子黒板を活 用した授業を実施(教務部)	(4) ア・全授業で一斉または個別学習に対 応できているか、公開研究授業週 間等を利用して確認 ・1 人 1 台端末を活用した授業を全 教員が共有	(4) ア・授業観察により、すべての授業で生徒 1 人 1 台端末と電子 黒板が授業展開に応じて効果的な活用がされていること を確認済み。＜○＞ ※毎回の授業では ICT 機器を使用していない教員につい ても、授業で活用したことはある。
		(5) ア 大会等への積極的参加 (生徒指導部)	(5) ア・高等支援学校リーグ戦、府代表し べル、全国レベル大会出場 ・障がい者スポーツや文化芸術活動 に積極参加	(5) ア・全国特別支援学校フットサル大会西関西大会準優勝(サッ カー部)＜◎＞ ・各競技の大会出場(スポーツ部)、高等学校芸術文化祭に 出場(ダンス部)、子どもたちの讃歌展への展示(美術部)、 摂津市民芸能文化祭への展示(新聞部)＜◎＞
		イ クラブの活性化 (生徒指導部)	イ・クラブ加入率 80%以上[65%]	イ・全体：75 人、81.5%＜◎＞ 1 年：29 人、87.9% 2 年：22 人、73.3% 3 年：24 人、82.8%
	(4) 1 人 1 台端末の 効果的な活用と 電子黒板等 ICT 機器を活用した 授業等の推進 (5) 生徒会活動の充 実とスポーツ交 流機会の拡大や 部活動の活性化	ウ 生徒会(委員会等)活動の充実 (生徒指導部)	ウ・生徒会活動の府内発信 の継続 2 回[3 回]	ウ・生徒会で、府民に対して、校門前で朝の挨拶運動を行っ た。また、生徒保健委員会が 1/22 に大阪府立学校保健 研究会発表大会において「心も体もパワフルとりかい生」 をテーマに発表を行った。＜○＞

府立とりかい高等支援学校

2 高等支援学校教員としての資質の向上と学校組織力の向上	(1) 指導力、授業力の向上	(1) ア 新転任者を対象とした校内外研修の充実 （地域支援部） イ 公開研究授業週間の充実 （地域支援部） ウ 高等支援学校のミッションの理解 （地域支援部・首席）	(1) ア・新転任研修の充実のため、首席、指導教員による事例を活用した研修を実施 12 回〔12 回〕 イ・公開研究授業週間 2 回/年実施を継続〔2 回/年〕 ・他の全高等支援学校説明会への参加 2 校〔2 校〕 ウ・オープンスクール、学校見学会、高等支援学校研修会等で新転任者が説明 10 回〔8 回〕	(1) ア・4/2, 4/4, 4/10 に新転任研修を実施。オープンスクール・高校進学フェア前に学校概要を説明。個別支援を計 5 回実施。総計 10 回<△> イ・6/26,27 および 1/22,23 公開授業、6/17～21 および 1/17～23 研究授業週間を実施。<○> ・8/7 の高等支援 5 校の連絡会にて情報交換。10 月むらの高等支援学校での公開授業に参加。<○> ウ・オープンスクール 3 日間、学校見学会 2 日間、中学校等教員対象学校説明会 2 回で新転任者が説明しながら来校者を校内見学に引率。進学フェアでも新転任者による会場内誘導や学校説明をし、計 8 回。<○>（10 回には達していないが、見学会等の説明が十分できていたため、高等支援学校のミッションを理解したと考え○とした。）
	(2) 人権意識を高め、専門性の向上	(2) ア 人権意識、コンプライアンス意識の向上を図る （地域支援部・教務部） イ 専門性の向上 （管理職・地域支援部） ウ 教員がビジネスマナーを習得する（教員の授業に応じた身だしなみ、言葉づかい、TEL 対応等徹底）（進路部）	(2) ア・人権研修 3 回/年（同和問題、体罰防止、卒業後の生徒支援関係）継続 ・日常的な授業観察を通して教員間、対生徒への丁寧な言葉遣いの徹底 ・SNS 等インターネット上に係る差別やいじめに関する研修実施 2 回〔2 回〕 ・個人情報の扱いに対し、教職員の意識向上とセキュリティポリシーの遵守の研修 2 回〔2 回〕 イ・支援学校免許取得本校籍 80%以上〔60%〕 ・障がい理解研修 2 回〔1 回〕 ウ・ビジネスマナー研修 3 回〔3 回〕	(2) ア・人権研修として、7/22 不登校支援、8/21 同和問題、9/30 体罰防止について実施。 <○> ・継続して授業観察等により、丁寧な言葉遣いが徹底されるようにしていく。<○> ・SNS 研修として、12/24 KDDI スマホ安全教室（保護者への公開を含む）、1/8 SNS でのいじめ防止研修を実施。<○> ・4/2 本校の個人情報の扱いについて、6/13 個人情報の適正管理についての研修、3/18 校務用 ICT 環境での PC 及び情報の取り扱いについての研修の計 2 回実施。<○> イ・支援学校免許取得率 74.3%<△> ・4/4 障がい理解研修を 1 回実施。<△> ウ・7/22 ビジネスマナー研修を 1 回実施。<△>
	(3) 経験年数の少ない教員への支援と積極的な学校経営参画と組織力向上	(3) ア 人材育成の推進 ・ミドルリーダーの育成 ・新転任者、経験年数の少ない教員への支援 （首席・指導教諭・地域支援部） イ 組織的・継続的な人材の育成 ・企画委員会の充実 （首席・指導教諭・分掌長・学年主任）	(3) ア・首席による OJT、教育庁の研修等活用 ・学校教育自己診断 「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」肯定率 70%以上〔60.0%〕 イ・職員会議後の時間を活用して研修参加教員の伝達講習実施 5 回〔2 回〕 ・企画委員会で将来構想を 1 回/月議論 ・学年主任会 1 回/週 ・学校教育自己診断 「教職員は、学校の運営や改善に役立つよう積極的に意見や考えを発信している」肯定率 80%以上〔72.5%〕	(3) ア・学年統括首席が学年主任と、分掌統括首席が分掌長と、情報共有を密にし、OJT を行っている。学年では学年主任、分掌では分掌長が中心となって運営している。<○> ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」肯定率 58.5%<△> 教職員の求めに応じて、指導教諭による短時間の研修を実施。 10 年目教員 2 名について、9/12, 12/12 研究授業、9/12, 12/13 研究協議を実施。 2 年目教員 2 名について、7/3, 7/11 研究授業、7/17 研究協議を実施。 イ・12/12 職員会議後に自立活動についての伝達講習を実施。また、外部講習会に出席した時の資料を 5 回、回覧した。<○> ・企画委員会は毎月実施し、新たな取組みについて話し合い、実現につなげている。いじめや人権に関わる内容があれば共有、対応する場としても活用している。<○> ・学年主任会は週 1 回程度実施し、情報共有や指導方針検討の場としている。<○> ・学校教育自己診断「教職員は、学校の運営や改善に役立つよう積極的に意見や考えを発信している」肯定率 70.7%<△> 学年会、分掌会議は月 1 回実施し、意見交換や情報共有の場としている。

3 関係機関との連携や交流と理解啓発の推進	(1) 積極的な地域活動への参加と啓発活動の推進	(1) ア 地域行事への積極参加 (地域支援部・職業学科) イ 関係機関との連携 (地域支援部・首席) ウ 共生推進教室設置校との連携を推進し、生徒間、教職員間の交流の機会を増大 (地域支援部・L.S.)	(1) ア・3回以上/年参加 [2回] イ・関係機関との懇談、連絡会5回/年 [5回] ウ・共生推進設置校への教員派遣6回/年 [2回/年]	(1) ア・4/13 安満遺跡公園ハンドメイドフェス、6/2 淀川わいわいガヤガヤ祭り、9/7 千里青雲高等学校文化祭で学科製品販売。11/2～4 摂津市民芸能文化祭に作品展示。＜◎＞ イ・三島地区若者サポートセンターとの懇談、高槻市地域生活支援センターへの見学、地域支援整備授業職業学科五校連絡会3回、三島ブロック会議参加1回、12/13 摂津市商工会青年部による1年生向け進路学習＜◎＞ ウ・7/16, 8/27 北摂つばさ高校から授業見学受け入れ、10/15～17 千里青雲高校から授業見学受け入れ、10/23 千里青雲高校へ障がい理解研修の講師として教員派遣、11/6～8 生推進教室設置校へ授業見学＜◎＞
	(2) 広報活動の充実による地域、企業との連携	(2) ア 本校の教育活動の発信 (地域支援部・首席) イ ホームページの更新と充実 (教務部) ウ 視察、見学の受け入れや参加 (教務部・進路部・地域支援部) エ 行事、授業等の積極的公開 (地域支援部・首席)	(2) ア・中学校中学部教員向け「高等支援学校説明会」の実施2回（オープンスクール、学校見学会除く）維持 [2回] ・新しい学校案内（職員室前校内掲示）の追加作成 イ・全教員各自2回ブログ UP [年 84 回] ・校長ブログの充実 2 回/週 UP [年 90 回] ウ・積極的に受け入れ、5回以上、他校等視察3回 エ・中学校、中学部を対象とした行事公開を実施3回 [3回] ・中学生対象の体験授業を実施 [オープンスクール、学校祭]	(2) ア・6/20, 1/6 中学校等教員対象学校説明会を実施。＜○＞ ・新聞部が新しい学校案内を作成し掲示。＜○＞ イ・生徒活動ブログ 89 回 UP＜○＞ (ブログ担当が、授業・行事担当者に取材し更新) ・校長ブログ 135 回 UP＜◎＞ ウ・企業からの見学は 44 件。5/27 教育庁と教育センターより視察来校、座学授業見学。11/8 第 32 回職業リハビリテーション研究・実践発表会に出席。1/21 教育庁より学科の授業視察＜◎＞ エ・11/16 学校祭を公開。30 人が参加。＜△＞ ・8/22～24 オープンスクールで体験授業を実施。＜○＞
	(3) 防犯・防災教育の充実	(3) ア 生徒向け防災学習の充実 (生徒指導部) イ 避難場所、避難所の確認徹底 (生徒指導部) ウ 備蓄品の充実と活用に向けた検討 (生徒指導部・保健部)	(3) ア・防災・防犯学習4回/年 [4回/年] ・教育支援クラウドサービスを利用した災害時における生徒の安否確認訓練の実施2回 [2回] イ・マニュアルの確認改訂、防災計画に基づいた配備態勢など周知徹底、教職員防災必携の確認と常時携帯（学習会実施） ・摂津支援学校との連携 3回 [3回] ・摂津市防災委員との連携会議 1 回 [学校見学（避難場所体育館）0 回] ウ・PTA と連携した備蓄品の検討 ・備蓄品の常時公開	(3) ア・5/10 火災避難訓練、6/3 防犯学習、9/3 地震津波避難訓練、12/23 地震津波火災避難訓練を実施。避難訓練は摂津支援学校と合同。＜○＞ ・9/3, 12/23 の避難訓練時にクラウドサービスを利用した生徒の安否確認訓練を実施。＜○＞ イ・6月に防災マニュアルの確認及び改訂と周知徹底。＜○＞ ・摂津支援学校との連携について、上記各避難訓練での情報共有、8/1 摂津支援学校との合同教員防災研修を実施し、連携計5回。＜◎＞ ・6/12 摂津市防災危機管理課と避難経路および市民用の備蓄品の確認。 9/18 摂津市防災危機管理課と上島飼自治会との校内の避難場所確認、意見交換。＜◎＞ ウ・8/1 摂津支援学校との防災研修で備蓄品の情報共有。備蓄品の期日確認と補充。現時点の備蓄品を確認し、適量に調整。＜○＞ ・タイムカード前で備蓄品の常時公開。＜○＞
	(4) グローバル人材の育成	(4) ア 国際理解教育推進 (外国語科・各学年) イ 台湾への研修旅行の計画実施 (海外研修旅行が無理な場合は国内で国際交流可能な場所を設定)、事前事後学習の充実 (管理職・首席)	(4) ア・T-NET、外部講師（留学生等）を招いた国際交流授業 12 回/年を維持 [12 回/年] イ・当該学年の事前交流実施2回/年 [実施できず] ・令和7年度以降の海外研修旅行実施の検討	(4) ア・[12 回/年] を計画し、実施中。＜○＞ T-NET 実施予定日 ①9/24 ②9/25 ③11/5 ④11/6 ⑤1/20 ⑥1/21 ⑦1/23 OFIX 実施予定日 ⑧1/27 ⑨1/28 ⑩1/29 ⑪⑫1/30 は2回分 イ・現1年生 12 期生の R7 年度実施の研修旅行は国内での実施を決定。 ・現2年生 11 期生の研修旅行は 11/27(水)～29(金)に沖縄で実施。現地での国際交流の事前学習を行った。＜○＞ ・R7 年度入学生 13 期生の行き先は検討中。＜○＞
4 校務の効率化による働き方改革	(1) 校務運営の効率化 (2) ワークライフバランスを意識した働き方改革の推進	(1) ア 生徒アンケートの電子化の拡大（教務部） イ 保護者への文書の完全電子化（全校） (2) ア 在校等時間管理及び健康管理 毎週水曜日の「全校一斉退庁日」の徹底（労働安全衛生委員会） イ 職員会議による情報共有や職員研修を通じたよりよい職場環境づくりの推進（労働安全衛生委員会）	(1) ア・実施率 100%[80%] イ・実施率 100% [実績なし] (2) ア・年間の時間外が教職員 全員 360 時間以内 イ・職員研修2回実施 [1 回] ・ストレスチェック度 90 を維持 [85]	(1) ア・実施率 100%。校務運営の効率化という目的から外れているアンケートは除外。＜○＞ イ・実施率 75%。出欠表がついている文書など紙でのやり取りが必要なものを除けば実施率 100%。校務運営の効率化の点から今後も要検討。＜○＞ (2) ア・年間 360 時間を超えた教職員：8 人＜△＞ 毎週水曜日の職員朝礼で「全校一斉退庁日」であることを呼びかけている。 イ・7/18, 3/18 メンタルヘルス研修を計2回実施。＜○＞ ・ストレスチェック度 84＜○＞